

2013年3月 再処理企業協議会 かわら版



第1号

構内作業に従事されている皆さまへ、あなたも“再処理企業協議会”の会員です！

今月の担当者



荒川



山口

2013年（平成25年）3月1日発行
再処理企業協議会 広報部会
〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駈
字弥栄平 1-5 再処理企業センターB棟
TEL (0175) 71-2487 FAX (0175) 71-2488
URL <https://www.saisyori-kigyogyokai.jp/>

年度末の繁忙期、スタッフ毎の確認でゼロ災に向けてみんなで頑張りましょう！！

【再処理企業協議会発足】

2012年11月27日 再処理企業協議会が発足致しました。

会員各社全員で協力し、よりよい会を目指していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

【目的】

再処理事業所の定検・保守・建設並びに構内のあらゆる作業の円滑な推進と会員企業の健全な発展に寄与することを目的として設立されました。

【活動】

本企业協議会は「技術研修部会」と「広報部会」とで構成され、以下の活動を行っていく予定です。

【技術研修部会】

会員企業に共通する技能訓練・教育などを実施し、再処理事業所で求められる高い技術と品質の達成を図る。

- ・ 会員企業の技術レベル向上策並びに特別教育などの計画運営
「予定」
研修・教育については、「技術研修部会」で計画運営を行う予定となっています。
計画の決定以降、ポータルサイト及びかわら版にて研修予定を掲載致します。
- 「実績」
統一「入所教育テキスト」を作成。ポータルサイトに掲載し、各社教育実施。

【広報部会】

会員企業相互のコミュニケーション推進のための事業を行う。

- ・ ポータルサイトへの掲載資料の作成、管理
- ・ 会報編集（年2回発行）
- ・ 構内・構外の各種行事を紹介したかわら版発行（隔月発行）
「予定」

再処理企業協議会設立記念講演開催

下記日程にて鈴木正昭氏（東京工業大学社会人教育院院長）による講演を開催致します。
協議会会員企業の皆さん、奮ってご参加下さい。

【開催日時】 2013年3月19日 13:30～15:00

【会場】 再処理企業センター（X15）B棟1F大会議室

【演題】 「技術伝承と原子力」

～大きな節目を迎える核燃料サイクルを俯瞰する～



東京工業大学社会人教育院院長
鈴木正昭氏

【専門】

「原子力化学工学」「プラズマ応用」
「複雑系の移動現象の数値解析」などの研究



再処理企業協議会
グランプリ作品

【再処理企業協議会ロゴ決定】

以前、募集致しました「再処理企業協議会」ロゴマークのグランプリが決定しました。
多数のご応募ありがとうございました。

「ロゴマークの意味」

日本原燃殿ロゴマークのインフィニティ部分をシェイクハンドに置き換えたもので、再処理施設で働くみんなの手を取り合い無限の力で再処理施設内企業の発展に寄与していく姿をイメージしています。

【地域情報】

大間崎（オオマザキ）

本州最北端の地「大間崎」に行ってきました。到着してさっそくに飛び込んだのは「マグロの一本釣り」のモニュメント。モニュメントの近くでは数羽のウミネコもお出迎えしてくれました。

モニュメントから沖合い約800m先には弁天島があり、真ん中の盛り上がっているところに白黒ストライプの大間崎灯台が立っています。弁財天が祀っておりお金ではなく水の神様として海難の守り神になっています。

大間といえば、「マグロ」。

『マグロは速く泳ぐため、ヒレが抵抗にならないように体の中に折り込まれるための溝があり時速64～90kmの速さで泳ぎます。昔から食用とされていたが、腐敗しやすいということもあり、高級魚としての扱いは受けていませんでしたが、冷凍技術の進歩や日本食ブームにのり、特に日本では高級魚として扱われるようになりました。』などのウンチクを語りつつ、近くの食事処へ。

メニューを開けるとやはり高い。せっかくここまで来て食べなかったら後悔するという思いと時刻が12時で小腹がすいているということもあって思いきって奮発しました。本日の昼食「マグロ丼」2800円也。

高いだけあっていつも食べているスーパーのものとは違い、口の中に入れた瞬間溶けてなくなりました。

ちなみにメニューの先頭には『大間マグロ漁期は7月中旬から翌1月終わりぐらいまで。「生の大間産本マグロ」をご提供できるのは、このシーズン中に限られますので、あらかじめご了承ください。』と記載されていました。

みなさんも大間崎にお出掛けのさいは、ご注意下さい。

【雑祭り】

3月3日は雑祭り。元々は「上巳（じょうし・じょうみ）の節句」といわれ中国では、上巳の日（3月上旬の巳の日）に、川で身を清め、不浄を祓った後に宴を催す習慣がありました。これが平安時代日本に伝わり、宮中の「人形遊び」と結びつき「流し雛」へと発展したといわれています。

平安の中期に「雛遊び（ひいなあそび）」というものがあり、貴族社会で盛んに行われており、当時は大人の遊びでしたが、次第に子供たちの世界に広がりました。

豪華な飾りを施すようになったのは江戸時代に入ってから。

現在でいう、お金持ちの大人がショーケースにフィギュアをならべて遊んでいるようなものだったのでしょか。そういう意味では大人から子供まで楽しめる行事なのかもしれません。ご家族ですてきな雑祭りを過ごして下さい。



マグロのモニュメント



鯛島（弁天島）とウミネコ



まぐろ丼

